

大阪錦繪新話

第 二 号



長死
赤吉橋通り
井池の川に男女が
さけが聲、助け
暮すざ八時頃、暗夜の
ことに雨あつち、あつちと一は独り
情死の仕損じあつち、助けんと。
うけつけこまへ真意の、名も善七が
眼とよめて、見まは人力車也へ、引上ん
とてあつち、巡吏何某とせ夫り
あつち、車かけあつち、様子聞けへ車
夫へ第六大區、小區中、小區吉との者まで
客へ高津町、四番町、松井熊吉、女ことまで
くろくんの灯が消え、路と失ひ川中へ

笹木芳龍述
并画

膨五 掌治
阿波 文板

車を曳込
こぼれ、向かみづ
とへ、あつち、巡吏
とが折れ、も来と
まが、おのり、あつち

